

## 日本技術の進むべき方向は？



工学博士 齋藤 潔  
早稲田大学 基幹理工学部  
機械科学・航空学科 教授  
先端生産システム研究所 所長

先日、国連主催の会議で発表を行うためにウイーンを訪問した。最近になり海外によく出張しているが、ウイーンへの出張は初めてであった。素晴らしいところであることは聞いていたが、建物が同一色で統一され、その街並みは大変美しいものであった。

ウイーンといえば、モーツァルトやシュトラウスに代表される音楽の街である。合間をみて学友協会大ホールへウイーンフィルハーモニーの演奏を聴きに出かけた。ジャズ好きの私には交響曲を好んで聞くことは少ないが、ウイーンフィルハーモニーの生演奏はその迫力、音質すべてにおいて素晴らしく、その演奏には感動した。

経済に目を向けるとヨーロッパは、ほとんどの国々で相変わらず厳しい状況が続いているようである。多くの国々で経済を支えられるような技術はない。観光で支えられている部分が多く、急速な回復は難しいのではないだろうか？日本は、最近になり、アベノミクス効果かどうかはわかりかねるが“20年間の我慢”を経てようやく景気回復のきざしが見え始めている。みなさん一安心しているところではないだろうか。

しかし、たとえこのような状況であっても日本の技術の今後について楽観視されている方は少ないのではないだろうか？家電製品は中国、韓国勢に押されっぱなしであり、著者が専門としているエアコン等の空調機器も日本の製品の品質は高く、効率もよいのであるが、世界のユーザーからみれば、他国の製品とほとんど差が感じられないというのである。高機能で高性能な日本製品だからといって売れるような時代ではなくなっている。

バブル崩壊後の日本製品は大変厳しい状況においこま

れてきた。企業も体力がなくなり、新しい開発投資もできなくなったことが大きいと思う。しかし、著者が心配しているのはこのような厳しい状況となっても社会システムも含めて国家自体に変革に向けた動きがほとんど感じられないことである。うわべだけの改革のように思えてならない。まだまだ日本は平和な国家なのであろう。

ヨーロッパの芸術が素晴らしいことはすでに述べたが、日本の芸術はどうであろうか？日本の芸術は「わびさび」なる言葉に代表されるように簡略をよしとし、華美を嫌い、日本の伝統的な芸術、なかでも茶道や俳句などに見られるような究極の美的境地を目指す。一方でヨーロッパの華美な芸術は、方向性が根本的に異なる。私も年を取ったのであろうか？今回の旅を通じて日本の芸術の素晴らしさ、高度さを逆に感じずにはいられなかった。わずかな情報で極めて多くのことを伝えるのである。これには人間のレベルも相当高度でなくてはならない。西洋の芸術は情報量が多すぎ、視聴して最後には疲れてしまう。日本の芸術には何とも言えない安心感のようなものがある。

最近東南アジアを訪問することが多く、彼らにいったいどのようなものがほしいのかとよく聞いてみる。結局シンプルで使い勝手がよく、値段の安いもの…ということになる。多くの機能を有する高性能な日本製品を必要としていないのである。日本の芸術のように余計なものをそぎ落とし、簡略をよしとした究極の製品？を作ることではできないであろうか？日本はすべての技術分野で相変わらず高い技術力を有する。この高度な技術力を活用し、世界中の人々が簡単に使えながら高性能な製品がで

きれば、まだまだ世界と十分に渡り合えるのではないだろうか？日本の技術が目指すもの…。一度リセットできれば、答えは意外とすぐそこにあるのかもしれない。

最近学生には試験で良い成績を取ることを最良の目的としてきた人生観を一度リセットする場が大学だとしつこくいっている。良い発想ができる人が良い人材なのだからと…。もちろん大学で何かをつかんで羽ばたいていってくれる学生もおりうれしい限りであるが、まだわ

ずか20年しか生きてきていない彼らにも人生をリセットすることは至難の業のようである。一度全否定をしなければいけないのだから。

勝手な考えを述べさせていただいたが、いずれにしても日本の科学技術の進むべき方向性がそろそろ明示され、日本が真の復活を果たすことを期待するところである。

日本がよしとしてきた技術の方向性を一度リセットしてみるのが手ではないだろうか？

